

第27回秩父宮記念スポーツ医・科学賞 奨励賞受賞者

<グループ名> 和歌山県立医科大学 げんき開発研究所 障がい者スポーツ研究グループ
<代 表> 田島 文博 氏

げんき開発研究所は、障がい者スポーツ医科学研究の推進と県民の健康増進を目的として、2009年に和歌山県立医科大学みらい医療推進センター内に設立された。

同研究所のメンバーを中心に構成された障がい者スポーツ研究グループは、医学部を有するという大学の特徴を活かし、当時手つかずであったパラスポーツの基礎医学的分野の研究を脊髄損傷選手から開始した。実際の競技前後の血液生化学・免疫学的解析を行い、パラアスリートの身体的特性やトレーニング効果に関する科学的知見を蓄積し、これらの成果は国内外で学術的評価を受けている。以降、パラスポーツ分野における新たな知見の提供や理論的基盤の構築にも貢献し、実践研究では、脊髄損傷者等のパラスポーツ選手競技力向上を目指した取組も進めている。

また、障がい者スポーツ医科学分野の研究拠点として卓越した実績を有し、文部科学省から「障がい者スポーツ医科学研究拠点」に認定されS評価を受けると、強化拠点にも指定された後、スポーツ庁の「地域におけるスポーツ医・科学支援体制構築事業」を受託するなど高い評価を得ている。

さらに、ラフバラ大学、ブリティッシュコロンビア大学等海外の大学からも若手パラスポーツ研究者を受け入れ、国際シンポジウムを毎年のように開催し、共同研究論文も多数発表するなど、国際的にも高い評価を得ている。

その他にも同研究グループの障がい者スポーツ医が夏季・冬季パラオリンピックの他、様々な国際大会のメディカルチェックを担当し、28種目、2000名以上の出場選手の海外渡航、大会参加に貢献してきた。

特にパラ陸上競技については、2012年以降に測定やサポートをした選手のうち、国際大会での入賞が7種目にのぼり、金・銀を含む複数のメダル獲得に貢献し、現在は水泳、アーチェリーなどの選手に対してデータ測定やサポートを行い、全国から同研究所の設備やサポート能力を求めて依頼が来ている。地域でパラアスリートを医科学的に支援する体制の構築に向けた取組も行い、研究やコーチングにとどまらず、制度の社会実装まで視野に入れた活動を続けている。

このように同研究グループのメンバーである研究員がスタッフとして大会に帯同し、現場で選手やコーチと密接に連携することで、科学的根拠に基づくサポートを提供し、選手のパフォーマンスの向上を支援している。こうした同研究グループの医科学的な研究成果に基づいた指導が、2016年リオデジャネイロ、2020年東京、2024年パリパラリンピックにおけるメダル獲得や上位入賞の要因の一つである。

これらの取組によりパラスポーツ医科学研究の発展に貢献し、選手の健康維持増進と競技力向上に寄与していることから奨励賞を授与する。